

AMD Aに寄付

コソボ報告に感銘

ドコモ中国の社員有志



AMD Aスタッフに寄付金を手渡す佐々木恒彦支店長(右)

ユーゴスラビア連邦・コソボ自治州で難民の救援活動を行っている国連NGO「AMD A」(アジア医師連絡協議会、本部・岡山市)に対し、ドコモ中国(本社・広島市)の社員有志が二十九日、約三十五万円を寄付した。AMD Aの緊急救援チームに参加した同社従業員の話を聞いた同僚たちが「何かできることを」と、集めた支援金だ。

救援チームに参加したのは、同社岡山支店職員の平松範子さん(三〇)倉敷市羽島。先月九日から二十九日まで、コソボで調整員として活動、持ち前の語学力と通信に関する知識をフルに発揮して活躍した。

帰国後、社内で報告会を開き、平松さんがアルバニアの国情や被災者の悲惨さ、人々の温かさなどを話した。これに感銘を受けた社員らが自発的に募金活動を行った。

岡山市権津のAMD A本部でこの日、贈呈式が開かれ、佐々木恒彦、岡山支店長が集めた三十四万八千三百七円をスタッフに寄贈した。スタッフたちは「現地では、医者はいても聴診器、ピンセットがない」という状態。有効に使います」と礼を述べた。

かすことのできない力や、仕事で培った知識を生かすことができてうれしい」と話した。

同社は先月にも三十万円を寄付。平松さんが派遣される際に貸与した衛星対応携帯電話は、現在も現地で活躍中、という。